





文化

扶余博物館を参り、白馬江(錦江)にかかると白馬橋をわたる。昔の王都をしのぶは扶余八景の一「白馬江の春」には、河津、鮮人參の栽培が、山腹に平地に、わら、すたれなど覆われた地がある。ここに立って、夕々と流れる白馬江、流れに水浴する赤牛のゆたかりた姿、北方にみまむ扶余山の山々は、まことに美しい。その昔、百濟最後の王、大田を出て約五〇年、よま

アジア歴史の旅

……中……

日本であらうドライブインがある。秋風、稲穂、車道である。一層入景が心にうつる。百十有余の間、百濟の王都としての繁栄を誇った扶余に別れて、一時間半、大田に到着。韓國中の大都市である。大田からまた中央の大都市を走る。このあたり、朝鮮人參の栽培が、山腹に平地に、わら、すたれなど覆われた地がある。ここに立って、夕々と流れる白馬江、流れに水浴する赤牛のゆたかりた姿、北方にみまむ扶余山の山々は、まことに美しい。その昔、百濟最後の王、大田を出て約五〇年、よま

古都も並木のかげに

―点在する王塚や寺院はひっそりと―

永井 照



永井 照氏

州を右に見て、百目の宿泊、州の地は日本の奈良、京都に似て、歴史の都である。その昔、高古の古墳が、今もあふれている。新羅千年の王塚、半月、東洋最古の天文台の胆墓台が、夕陽の光に輝き、美しい。その昔、百濟最後の王、大田を出て約五〇年、よま

自由都市の面影残る

―富田林と今井に旧家の遺構―

桑原 守也



今もなお静かなたたずまい。富田林の杉山家(重要文化財)

最近、いよいよ富田町が都市計画・都市開発の都市保存の典型としてクロス・アップされてきた。いままでも、富田町というのは一向の寺を中核として創設・発展してきた都市である。身近なところでも、あつちの富田町(正安寺)、摂津市富田(教行寺)、奈良吉野町(本誓寺)、同下市町寺内(願行寺)、大和郡高井(正安寺)、橿原市今井町(徳念寺)、八尾市本町(大徳寺)、同久宝寺(願行寺)、富田林市富田林(興正寺別院)等があげられるが、これらは富田町の歴史を、この町を創設した富田林と今井に示している。

富田林 大阪河内野橋から所要約二〇分の河内長野行急行にのって富田林下車後、Pし教団本部の所在地で、いよいよ富田林と今井の歴史を、この町を創設した富田林と今井に示している。

富田林と今井に旧家の遺構 戦乱が河内内にも及ぼした。戦後、無防備平和都市を標榜したため戦禍を免れたことも大きな原因をなしている。富田林と今井の歴史を、この町を創設した富田林と今井に示している。

Chorofu Hotel advertisement. Text: チロル風のホテルは仲良し8人が一緒です。 Group life safety management and student self-management. Features: 2 people per room, technical hall, international racing course, etc. Includes an image of the hotel building.